

第2回X会議 議事要旨（速報）

- 1 日 時 令和7年8月20日(水) 11時00分～12時10分
- 2 場 所 北九州市役所本庁舎3階 大集会室
- 3 出席者 北九州市長 武内和久、副市長 江口哲郎、片山憲一、大庭千賀子
顧問 上山信一、山本遼太郎(官民連携ディレクター)
参与 田中江美 ほか

4 概 要

◇会議の冒頭、市長から以下の発言があった。

- ・北九州市には魅力のある観光資源が幅広くあるが、全部一緒に力を入れることはできない。
「北九州市といえば、すし」というような強い印象付けをしていくために、コンテンツに絞って戦略が必要と考える。
- ・また、市民・民間が観光で盛り上げようと動こうとしても、行政が縦割りで疲れてあきらめてしまう。そういう縦割りは打破しないといけない。
- ・観光はどの自治体でも注力している中、北九州市もよりしたたかにやっていくべきと考える。
これからどのようなアクションを起こしていくべきか、しっかりと議論したい。

(1) 観光施策

○観光施策について、現状整理、本市の抱える課題、今後進めるべき方向性等について報告した。

- ・他都市と比べ、観光客数、市内宿泊施設数や客室数が10年間で減少していることなど、現状を整理し、そのうえで、あるべき姿として、共通点の近い、尖った取組みのある熊本市をベンチマークとした
- ・課題(理想と現状のギャップ)を整理し、宿泊を伴う観光消費が旺盛な客層(遠方、インバウンド、若者)を狙うべきセグメントとして、戦略を検討する
- ・小倉城、門司港レトロ、皿倉山など多様な観光資源を磨き上げることによる来訪者の満足度向上、新たな観光客獲得に向けたターゲット別の情報発信、地の利を生かしたインバウンドの呼び込みの3つを柱として打ち手を考える
- ・様々な打ち手を実践し、R10年に、宿泊者数年間 260 万人(令和5年から7万人増加)、観光消費額年間 1,800 億円(R6年から796億円の増加)の実現を目指す

○討議では以下のような意見があった。

- ・観光は、「北九州市」という全地域でとらえるものではない。そのスポットが楽しかったか否かが観光客にとって意味のあるものであり、北九州市全体を漫然と売り込むのはやめる。北九州市を通過している人はいるが、立ち止まらないことが課題であり、途中で食事するとか、宿泊するとかで、1泊立ち寄ってもらうということを目指すべき。

- ・点在している観光コンテンツ、エリアのアクセスは課題であるが、それを全部アクセスするための議論になっていないか。インフラはある程度集中投資する必要。それによって食と宿泊の組み合わせによる滞在時間の延長を図る。
- また、皿倉山といえば夜景というような固定概念がないか。ウォーキングをアピールしてケーブルカーを使わない自然体験を打ち出すことも考えられる。
- ・観光はいろいろな楽しみ方があるという提案が必要。それぞれの国にあった発信方法で、ここではこういう体験ができるとイメージさせる発信をしたい。
- ・観光は、あれもこれも議論になりがち。北九州市では、「すし」に絞って成果が出始めている段階。これからはターゲティングに合わせたモデルコースをどう磨き上げるのかということにフォーカスしてほしい。
- ・北九州の地図からもう少し広げて、山口県や大分県とつなぐような視点が重要。例えば西瀬戸はものすごくいいのに観光地としては売り出されていない。が、関西から北九州市へのフェリーがあり、特等船室はホテルとして利用できる。関西の人に北九州市の観光地に来てくださいと。刺さるものが足りなければ宇佐神宮と結びつける、といったルートを作っていくのが重要と考えている。
- ・今あるコンテンツで適正な戦略はないか、と考えたところ5個(小倉城、門司港レトロ、皿倉山、平尾台、若松北海岸)すべてを売り出せるのか。必要な投資規模と優先順位もある。立てた戦略で刺さるまで進めていけるよう、もっと戦略を研ぎ澄ませて、順位付けをして進めてほしい。
- ・ディベロッパーが開発しやすい土地に整えるなど、行政が一步踏み込んで、どうすれば民間が投資するかという視点でまちづくりを考えていく必要。
- ・最近の発信力強化については、市民の1人として実感している。粋という意味では北九州市を捨てろというのは良いが、市民そのものが発信したい、出かけたいと思うようなストーリー性も大事にしてほしい。
- ・大阪は、奈良、京都の入口として、振り切って、食事、宿泊で売り込んでいった。まずは、立ち寄ってもらい、それからコンテンツを磨けばよいという発想。小倉で途中下車して、福岡まで簡単に行けるというような割り切り、売り込みが必要。
- ・民間の発想力と市民の感覚は必要。民間主導でやると人が集まることも多い。役所だけで考えず、政策連携団体や民間企業がついてこられる戦略でないといけないと思う。

(2) 本部長講評

○観光施策討議後、本部長である武内市長から以下の講評があった。

- ・情報発信はアテンションのツールで、本丸の観光力強化においては過渡期的なもの。
- ・あるものを磨くという表現に引っ張られず、観光施策という定義をもう一度考え直した方がよい。行政の仕事は、規制緩和やインフラ整備やブランドなど、あくまでも、民間企業のサポートが中核。
- ・脱公平「全部を一斉にはいかない」、脱縦割り「民のアイデアを官のルールでつぶしていないか」、脱自己完結「今はレバレッジで福岡市・大分・関門を使っていく、リージョンで考える」で。
- ・観光分野では動線。アクセス、ルートの問題、どう動かすどう引っ張るが重要。庁内横断的な観光戦略のチームを作っていくことが必要。

(3) 局区 X 方針

○事務局から令和7年度局区 X 方針の進捗状況について報告を行った。

- ・令和7年度局区 X 方針を策定したので、状況を報告するとともに、本日ホームページで公表する
- ・今後、X 会議での進捗状況、および来年度 X 会議での成果報告を予定している

○報告に関して、会議では以下のような意見があった。

- ・本来の趣旨ではCレベルで「緊急度が高い」にはならない。担当局に危機感があるというのは良いが、過去からの歴史的なものが積み重なっているかもしれないので、精査した方がよい。

5 問い合わせ先 市政変革推進室
電話番号 093-582-3170